

I 実践

1 研究主題 豊かな心情や人権尊重の精神を育み、認め合い、助け合う子どもの育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は、「夢の実現に向け、生き生きと目を輝かせて学び合う児童の育成～みんな大好き・ドンマイ・ありがとうの心をはぐくみながら～」である。これを受け、人権教育では『子ども一人一人に人間尊重の自覚をもたせ、認め合い、助け合う子どもの育成』を目標としている。

本校児童は、全体的に明るく素直であるが、自己中心的であったり相手を思いやる配慮に欠ける言動をしたりする児童も見られる。社会や家庭環境の変化、様々な人とかかわる機会の減少などが要因として考えられる。そこで、学校の教育活動全体を通して、相手の立場を思いやり、認め合い、助け合う子どもを育成することが大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 好ましい人間関係づくり
- イ 人権教育の視点に立った学習活動づくり
- ウ 人権尊重の視点に立った環境づくり



2 実践内容

(1) 好ましい人間関係づくり

ア Q-Uの実施

学級集団全体の状態をデータとして把握するとともに、特別に支援を必要とする児童を把握するため、3年生以上の各学級で5月・10月に実施している。集計結果を二次元の表にまとめ、その分布から学級を「満足型」「管理型」「なれ合い型」「荒れ始め型」「崩壊型」の5つの状態で捉えて適切な支援に役立てている。

イ 学校生活アンケートと面談の実施

本校では、学校生活アンケートを毎月実施している。担任が一人一人のアンケートに目を通し、面談を行うことで交友関係の把握やいじめ、生徒指導の諸問題の早期発見と早期対応に生かすことができています。

ウ 児童と教師及び児童間の皆遊

休み時間は教師と児童と一緒に外遊びを行っている。教室の中だけでは分からない児童の様子や交友関係も把握でき、一人一人へのきめ細やかな支援に役立っている。

エ グループエンカウンターやアサーショントレーニングの積極的な活用

学級の実態や児童の発達段階を考慮しながら、好ましい人間関係を構築するための雰囲気づくりやスキルを学ぶことが大切と考え、積極的に取り入れている。

(2) 人権教育の視点に立った学習活動づくり

ア 道徳の授業公開

授業参観では、全クラスで道徳の授業公開を行い、保護者に道徳教育や人権教育への理解を促している。また、学年だよりで啓発内容を掲載したり教室に掲示したりすることで、学習したことが意識化だけにとどまらず道徳的実践力へとつながるように工夫してきた。

イ 様々な人とふれ合う体験活動

(ア) 福祉体験学習【4学年 総合的な学習の時間】

盲導犬(アイメイト)と共に生活する地域の方をGTに招いて講話を聞き、サポートの仕方を親子で体験して目の不自由な方への理解を深めた。また、アイマスクや車椅子、シニア体験では、体が不自由な方にとって町には不便な場所が多いことを知り、だれもが住みよい町づくりの大切さに気付くことができた。

(イ) 昔遊び会【1学年 生活科】

42名の児童とその祖父母21名で昔から伝わる遊びを体験する学習を実施した。遊び方のコツを教えてもらいながら、高齢者への尊敬の念と親しみをもつことができた。

(ウ) 1・2学年交流学習

生活科の学校探検や昔遊び、合同体育で年間を通して交流し、互惠性のあるかわり合いができています。2年生は1年生に教えることで自分の成長に気付き、1年生は教えてもらってできるようになると同時に将来の自分の姿を見通すことができた。

(エ) 異学年交流

「全校遊び集会」や兄弟学級での「仲良し遊び」を通して交友関係が広がり、学校生活をより楽しむことができた。

(オ) あいさつ運動【全校児童】

運営委員会が中心になり、月毎に順番で担当学級を決めて実施している。登校時刻に校門に立ち、朝の時間に各学級を訪問してあいさつを呼びかけることで、自分から元気にあいさつができるようになってきた。

ウ 思いやりや自他の人権を尊重する態度を育む活動

(ア) いのちの教育

助産師の講話を通して、人の誕生のしくみや命の大切さを学び、一人一人の自尊感情を高めることができた。また、出生時の話やその時の思いを聞き、両親への感謝の思いを強くした。

(イ) 人権集会「ハートほっこり集会」

日頃なかなか伝えられない感謝の思いをカードに書き、伝える活動である。集会では、各学級代表が勇気を出して友達への思いを伝えた。互いの気持ちを理解し深め合うことができた。

(ウ) 人権教育の視点に立った授業づくり

(エ) オンリーワン賞

全児童を対象に、年間を通して、誰もが1回は校長から直接授与される賞である。一人一人のよさや頑張りを認め、称賛する「オンリーワン賞」により児童の自己有用感が高まった。

(オ) 「人権メッセージ」(全児童)「人権書道」や「人権ポスター」(5・6年)への取り組み

(カ) 人権啓発 DVD「めぐみ」の視聴【6学年 道徳】

※視聴後の感想より

「めぐみ」を見て、命の重さや大切さを改めて思い知らされました。拉致された人の家族はどんなに悲しく辛いことでしょうか。めぐみさんが生きていてることを信じ、もう二度と起きないことを願います。

拉致という残酷な行為によって人々の幸せな生活が一瞬で奪われると知り、拉致はとても恐ろしいことだと思いました。とらわれてる人が全員開放されればいいなと思いました。

大切な人を失う悲しさや怖さが分かりました。めぐみさんを見つけ出そうとすぐに行動を起こすご両親は、凄いです。私は、普段親とあまり会話していないので、今度から話しかけてみたいです。

(キ) 保護者会での参加体験型人権学習

活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃何気なく子どもに発している言葉を見つめ直し、よりよい親子関係を築こうとする。 ・子どもの気持ちや人権について考え、子どもの自主性や社会性を育てる。
1 場所	教室 (20分)
2 参加者	学級担任がファシリテーター、保護者22名
3 内容	(1) 声を出さずに1月から誕生日順に1列に並ぶ 前から順に3～4人グループを作る (2) 演習「育てる思い」(「人権教育指導資料」第35集P13) (3) 児童の権利に関する条約について知る (第26集P18「子どもの権利条約」) (4) ふり返り

(3) 人権尊重の視点に立った環境づくり

ア 好ましい言語環境づくり

相手の立場を尊重し「さん」付けで呼び合い、全児童、職員が丁寧な言葉遣いで話している。

イ 好ましい生活環境づくり

「お掃除は心磨き」を愛言葉に清掃活動に取り組み、朝も日直による「清めの掃き掃除」を行っている。トイレや廊下にも花が飾られ、清潔で潤いのある環境が実現できている。

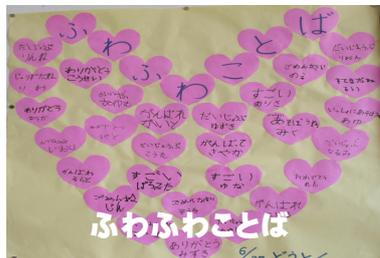
ウ ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境づくり

誰もが落ち着いて学習できるように、教室全面の掲示物は必要最小限としてすっきりさせる。必要に応じて1日や1時間の流れを掲示し、見通しをもち安心して生活できるよう配慮する。

エ 3人組の座席

児童の中には、人間関係づくりや学習の理解に時間を要す等の理由から居心地の悪さを感じてしまう子がいる。互いの個性を生かし、一緒に考えたり、発表の練習や助言し合ったりできるように3人組の座席とし、言語活動の充実と助け合い、学び合う児童の育成を図ってきた。

オ 人権・道徳コーナーの設置



3 成果

- (1) Q-U の集計結果や学校生活アンケートにより児童の実態を把握して、いじめや生徒指導の問題の未然防止に役立ち、学校が児童にとって安全で安心な場所になっている。
- (2) 積極的な児童との関わりや SST, SGE により、人間関係づくりが苦手な児童への支援ができた。
- (3) 人権尊重に視点に立った取り組みを通して、相手を思いやり、助け合う気持ちが育っている。
- (4) 様々な人とふれ合う体験や学習を通して、家族や友達、多くの人々に支えられていることを再認識し、感謝の気持ちを持つとともに自尊感情や自己有用感を高めることができた。

II 今後の課題

- (1) 人権教育の視点に立った教育活動の実践を推進する。
- (2) 人権に関する理解と認識を高め、指導力の向上を図る職員研修の充実
- (3) 人権コーナーの工夫
- (4) 家庭や地域と連携した啓発活動の推進